

2. 事業の概要

① 河川事業【斐伊川】

【河川改修費】（資料－１）

○斐伊川放水路事業は、平成２０年代前半の完成に向け、開削部において分流堰建設を進捗させるとともに、掘削・護岸等の工事を実施します。また、拡幅部においては旧橋りょう等の撤去を実施するとともに、引き続き、河道掘削・護岸等を実施します。（資料－２、３）

○大橋川において、まちづくりに配慮した大橋川改修計画の作成及び護岸・水門等の構造物概略設計を行います。
（資料－４）

○引き続き、松江市本庄地先（中海）の湖岸堤整備を推進します。

○斐伊川本川の堤防詳細点検を完了します。

【総合水系環境整備事業費】（資料－５）

○浄化対策事業では、中海及び宍道湖の水質浄化のための覆砂、植生基盤整備を推進します。

○松江市本庄地先（中海）で水辺の楽校を整備します。

【河川維持修繕費】

○直轄管理区間（延長 127.9 km）について、主として堤防除草、ゴミの除去、河口維持掘削、湖水面の清掃、揚排揚排水機場及び樋門の修繕・管理を行います。

【河川工作物関連応急対策事業費】

○中海周辺において、河川管理施設の樋門の改善を行います。

○宍道湖西岸において、樋門の空洞化対策を行います。

斐伊川水系流域図



河川改修費 < 主要箇所 >

資料-1



斐伊川放水路事業

■ 斐伊川放水路の役割

洪水時に斐伊川の水の一部を神戸川へ分流させることにより、斐伊川下流部の水位が下がります。
また、神戸川の川幅も広がるので、両河川の安全性が高くなります。

■ 斐伊川放水路事業の概要

- 斐伊川放水路（開削部）
出雲市大津町来原付近から同市上塩冶町半分までの4.1kmの区間を、96mの川幅で新たに掘削し、神戸川に合流させます。
- 神戸川（拡幅部）
合流点から河口までの9kmの区間は、神戸川の川幅を平均で現在の約1.5倍（300～370m）に拡幅します。
- 主な工事内容
掘削土量が約1,600万 m^3 、築堤土量が約400万 m^3 です。橋梁の架け替え・新設は25橋あり、また、斐伊川分流部の分流堰、神戸堰、新内藤川水門・排水機場等の河川構造物を建設します。
事業にかかわる用地面積は約322ha、移転家屋は437戸です。



神戸川河口部



国道9号神戸橋及び神戸堰



古志橋付近



開削部

平成21年度 斐伊川放水路の主要工事概要

資料-3



大橋川改修事業

■事業の概要

斐伊川水系治水事業の3点セット(上流のダム建設、中流の放水路建設と本川改修、下流の大橋川改修と中海・宍道湖の湖岸堤整備)の一つである「大橋川改修事業」は、島根県の県庁所在地である松江市街地の中心部を貫流していることから、国際文化観光都市である松江市にふさわしい景観となることにも配慮し、「治水と環境とまちづくりが調和する改修」を目標として計画の策定を進めています。

平成21年度は、これまで行った、大橋川改修の環境・まちづくりの検討会での議論を集約し大橋川改修計画を作成します。改修計画の作成は、地元の皆様の理解を得ながら行い事業着手を目指します。

■期待される効果

斐伊川治水事業3点セットの完成により、宍道湖周辺をはじめ島根県東部において甚大な被害をもたらした昭和47年7月洪水や平成18年7月洪水規模の洪水による浸水被害を解消します。



大橋川改修事業の経緯

- 平成16年12月:大橋川改修の具体的内容の公表
- 平成20年 9月:大橋川改修技術検討懇談会により、大橋川改修の進め方及び松江大橋の取り扱いについて助言
- 平成20年10月:大橋川沿川の景観形成に関する整備方針(案)の策定
- 平成21年 2月:大橋川改修事業環境調査最終とりまとめの公表
- 平成21年 2月:大橋川周辺まちづくり基本計画の策定

今年度の主な内容

- 大橋川改修計画の策定
- 護岸・樋門等構造物の設計
- 橋梁の検討
- など



宍道湖 植生基盤整備

